

三井住友海上火災保険株式会社
兵庫損害サポート部の皆さまより



段ボール3箱の食品が届けられました。私たちのフードシェアリング活動のSNS広報をご覧になり、社内の皆さんに呼びかけて、集めてくださったとのことです。

3年前からスタートしたフードシェアリング活動がさまざまご縁へと繋がり、大きな実になりつつあります。多くの方のご協力を心より感謝いたします。

／フォローしてね！／

SNSで情報発信中！



Instagram



X(旧Twitter)



FBページ

新たに入会された皆さん

- 【個人正会員】
- 本木 扶起子
- 森本 奈美
- 東口 由佳
- 松田 新和
- 橋本 成年
- 大串 真由美
- 平本 美佐緒
- 風早 寿郎
- 【法人正会員】
- 杉原サポート株式会社
- 有限会社 アクセスコーポレーション

寄付をいただいた皆さん

- 大西 僚
- 松下 佳代子
- 野村 洋平
- 宮崎 蔵人
- 岸本 洋介
- 岸本 瞳
- 逢坂 洋子
- 青木 幸治
- 平岩 伊佐子
- 小泉 登志代
- 相田 光一
- ウイハラナ 理絵
- 藤田 かおり
- 中山 竜一
- 相田 英俊
- 中山 光子
- 釣島 平三郎
- 直田 春夫
- 山口 一史
- 特定非営利活動法人たからづか子ども食堂
- カネテツデリカフーズ株式会社
- 三井住友海上火災保険株式会社 兵庫損害サポート部
- NPO法人ゲートキーパー支援センター
- 宝塚市まちづくり協議会 コミュニティ未広
- 特定非営利活動法人マイカーズクラブ
- 中ゴウ社会保険労務士事務所
- 一般財団法人 H2Oサンタ
- 株式会社 ドンク
- 匿名希望 7名

(順不同・敬称略)



会員継続・寄付のお願い

<http://hnpo.net/support/>
※認定NPO法人への寄付は
税制面で優遇されます。



VISION
一人ひとりがありたい姿で
社会参加のステージに
立てる未来

MISSION
人と社会をつなぎ
それぞれのHAPPYを
応援する

VALUE
一人ひとりのスマールステップに寄り添う
LIFEとWORKの両面から見えた社会課題に向き合う
社会参加の新しい形を提案する

(認定) 宝塚 NPO センター

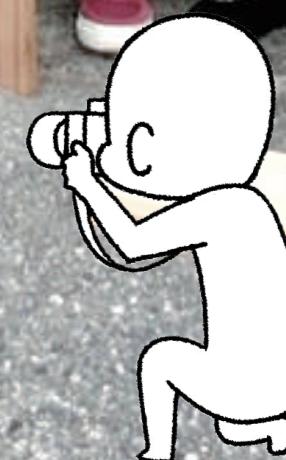
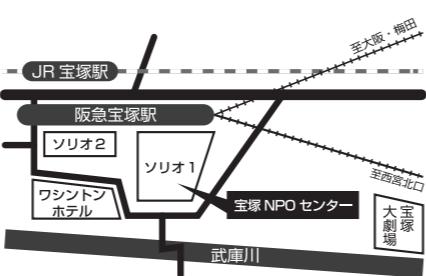
〒 665-0845

兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1 ソリオ1-3F

TEL : 0797-85-7766 FAX : 0797-85-7799

E-mail : zukanpo@hnpo.net URL : <https://hnpo.net/>

発行人 中山光子



世代を超えて広がる交流

扉を開けなば地域が繋がる



日本政策金融公庫との共催で講座を開催。創業を目指す方を対象に募集し、13名（男性7名/女性6名）の方が参加し、創業への『はじめの一歩』として『創業計画の大切さ』や『創業計画の立て方のポイント』を学びました。受講生からは「事業計画の大切さを改めて実感した」「創業に際して何が必要かなどを学べて良かった」などの感想をいただき、より具体的な創業へと繋げることができました。

（自主事業）



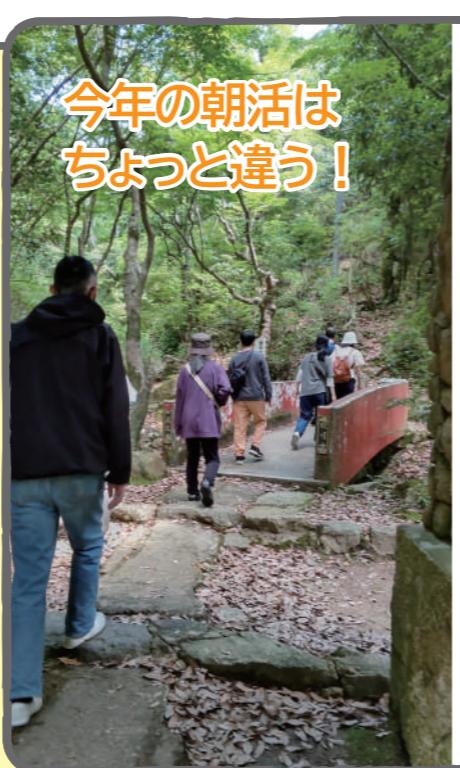
新たな広がりが生まれたフードシェアリング

昨年度から配布会という形で必要とされている方に食品をお渡ししています。配布会では1時間前から会場前を数十名の方が並ばれるようになったため、整理番号をお渡しするようになりました。次の私たちの目標はフードシェアリング活動をしたいと思っている方を増やす事！

そのため私たちの活動を知っていただきたいと市民のボランティアを募集したところ、数名の市民の方が参加。他にもフリースクールの小・中学生が授業の一環として参加され、子どもからシニアの方まで幅広い年齢の方が市民の方からいただいた食品を仕分けする配布会の準備に参加されました。子供たちと大人がペアになり、話し合いながら作業したこと、世代を超えて様々な交流が生まれていました。

また、こども食堂を運営している方からも活動を見学したいと問い合わせがあり、配布会をお手伝いいただきました。大手企業から食品の提供をしたいとの連絡もあり、少しづつ広がりを見せています。これからも多様な場所でフードシェアリング活動が広まるよう、色々な縁をつないでいきます。

（フードシェアリング事業）



昨年度から始まった就労部門の講座『朝活』。決まった日時に集合し身体を動かすことで、生活リズムを整えようという目的で、毎週水曜日の午前中に深呼吸とストレッチ・太極拳をしています。最初は深呼吸のコツが分からなかった参加者も、一緒に身体を動かすことで自然に身につき心身共にスッキリして帰られます。また、今年度からウォーキングとボランティアを組み入れました。ウォーキングは宝塚市内の様々な場所をおしゃべりしながら歩きます。最初は会話が苦手な人も自然に話ができるようになり、社会復帰への第一歩となっています。また仁川ウエル保育園に協力いただき、畑や砂場の整備・子どもたちと遊ぶなどのボランティア活動を始めました。その様子を見て園長先生からアルバイトの提案をいただき、参加者の中から2名の方の就労につながりました。通常面談とは違う環境で参加者の変化や成長を感じられる活動です。

（はたらく応援センター事業）
（宝塚地域若者サポートステーション事業）

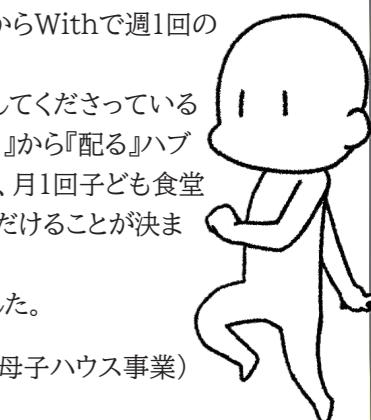


就労に悩みを抱える若者を対象とした宝塚市若者就労支援事業が9月からスタート。10代から40代の若者15人（男性6人、女性9人）が、全15回の講座と個別面談を含めた2月までのプログラムに参加しています。

10月23日の講座では、地域の企業の経営者、山本学さん（ライフインパクトジャパン）と、足立和宏さん（阪神特殊自動車株式会社）が講師として自身の就労体験談や経営者視点の採用のポイントなどについて話し、若者の一步を後押ししました。

私たちは若者の就労などの社会課題に、地域の方々とともに取り組んでいます。

（宝塚市若者就労支援事業）



休眠預金の助成金が決定した2022年は、建物の整備や入居者の募集などWithの基盤整備を行いました。全ての部屋に入居者が決まり、アパートとしてそれなりの形になったのが2年目。助成金申請の際に『地域の方々と一緒にシングルマザーを支える』ことを目標にしていたものの、なかなか地域とWithのつながりが作れず焦りを感じつつ、助成期間最終年度の3年目を迎えるました。

「良い機会だから、PTA会長にも声をかけておいたわ」。6月に見学に来られた民生委員さんからの一言。これが繋がりのタネでした。この見学をキッカケにトントン拍子で8月に縁日と駄菓子屋を開催。当日は高校生や大学生もボランティアも参加してくれ、PTAの方々もお手伝いに駆けつけてくれました。この日がキッカケとなり10月からWithで週1回の地域の方が中心になりフリースクールがスタートしました。

地域とのつながりのもう一つのキッカケは『食品』でした。Withのスタート時から食品を提供してくださっているユーピーコウベ様の提供品が増え、Withを核に地域食堂や高齢者食事会に配布を行い、『いただく』から『配る』ハブの役割を持ちました。加えて、『使う』こともスタートしました。10月から始まるフリースクールでは、月1回子ども食堂を開催します。それと同時に、NPOセンターの階下の阪急百貨店内ドンク様からパンを提供いただけたことが決まり、子ども食堂で活用することになりました。

昔話の「わらしべ長者」の様に縁と縁が繋がり、3年目にしてやっと『地域と繋がる』が実現できました。

（母子ハウス事業）